

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



居心地のよい学級・授業

- 教室に入りやすい空気、安心できる雰囲気がある
 - ⇒一緒に参加したくなるような柔らかな空気がある
 - ⇒間違いや分からないことに対して、助け合う風土がある
- 基本的な学級のルールが明確で、子どもたちの学習態勢が確立している
 - ⇒言葉遣い、発表の仕方、ノートの取り方等がしっかり定着している
- ※子どもの返事の声が小さかったり、していなかったりすると、やり直しをさせる場面がある。うまくできたときに、すぐ評価することが定着につながる。注意で終わらない！
- 教室環境、学習環境が整備されている
 - ⇒黒板付近の掲示物を精選したり、見通しがもてるスケジュールが提示されたりしている
- 子どもたちが互いの話を聴いて、反応している
 - ⇒友達や教師の話にうなずきや相づち等、体で聴く姿勢が見られる
- 教師が子どもたちの頑張りを認める、ほめる回数が多い
 - ⇒注意や叱責が増えると、学級全体がとげとげしい雰囲気になる
- 教師が一方向的に話すのではなく、子ども同士の学び合いができていく
 - ⇒一斉指導、グループ活動、ペア活動、個人等、学習形態を工夫し、教え込む授業から脱却する
- 板書を見ると、授業のねらいが一目で分かる
 - ⇒本時のめあてや流れが板書されている
 - ⇒本時のキーワードやヤマ場が分かるような板書になっている
- 教師が明るく、表情豊かである
 - ⇒よい言葉を笑顔で伝えることが、子どもへ安心感を与える

「居心地のよい学級・授業づくりの充実度は、子どもの表情や言動に表れる」

相談・支援活動から

ある自閉症・情緒障害学級での一コマ。
段ボールにローラーで色を塗る活動をしていた。A君は日ごろから物を叩くことが好きであり、ローラーを転がすよりも、叩くように色を塗っていた。担任は、A君のローラーに付いている絵の具が薄くなると筆で足していた。しかし、絵の具を直接段ボールに置いた瞬間、ローラーを伸ばしながら色塗りを始めた。それを見ていた周囲の人たちが歓声を上げてほめた。これを機に、A君はローラー塗り名人に変身した。

自校の高等部生に検査を実施して、保護者の了解を得て、本人へ報告書を基にフィードバック面接を行った。

「検査時の様子、得意なところと苦手なところ、苦手さをカバーするための手立て」を説明した。一方向的な報告ではなく、解釈が本人の納得できるものか確認しながら行った。これまで検査結果は、指導者や保護者へ報告することが中心だったが、本人に伝えることで自己理解を深める機会につながり、より意義のあるものとなる。